

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

シャープ株式会社 電子デバイス事業本部 福山工場

(2) 事業所の所在地

広島県福山市大門町旭1番地

(3) 業種

2814 集積回路製造業

(4) 事業所位置図

別紙（事業所位置図）のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成26(2014)年度を基準年度とし、平成27(2015)年度から平成30(2018)年度までの4年間とする。

3 計画の基本的な方向

1 基本的な考え方(環境方針)

シャープ株式会社 電子デバイス事業本部(福山)は、カメラモジュール、タッチパネルコントローラ、センサ、LED、パワーデバイスなど、スマートフォン、家電、自動車、医療/健康、インフラ関連向けデバイスの、企画・開発・製造を行っています。

その事業活動を行うにあたり、

全社環境基本理念『誠意と創意をもって「人と地球にやさしい企業」に徹する』、

全社環境方針 『環境共有価値(Green Shared Value)の拡大』

に基づき、以下の取組みを推進し、環境汚染の予防は勿論のこと、環境保全活動の深耕と継続的改善を図り、企業としての責任を果たします。

2 取組内容

- (1) 環境配慮型商品(製造段階から廃棄段階までの環境影響を最良化した商品) / 高機能・高付加価値商品(社会生活の向上に寄与する商品)の創出
- (2) 環境負荷低減活動の推進
(地球温暖化防止対策の推進、廃棄物の削減と再資源化の推進、化学物質適正管理の推進)
- (3) 適用可能な環境法規制並びに事業所が同意するその他の要求事項の順守
- (4) 環境マネジメントシステムの強化と継続的改善
- (5) 環境目的及び目標の設定と定期的見直し
- (6) 社内教育・啓発の充実
- (7) 社外コミュニケーションの推進
- (8) 社会貢献活動の推進

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度	直近年度
		平成26年度	平成26年度
二酸化炭素	72,772	80,863	80,863

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度	直近年度
		平成 年度	平成 年度
二酸化炭素			

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成7年度	基準年度	直近年度
		平成26年度	平成26年度
メタン	(※) HFC、PFC、SF6の平成2年度 排出実績は、世界的に 稀少であるため、平成7年度の排出量を記述。 (COP3での決定事項による。)		
一酸化二窒素			
HFC PFC SF6	190,593	5,990	5,990

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成26年度)		削減目標		目標年度 (平成30年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)	
エネルギー起源CO ₂	80,863	13.4	10,863	70,000	
非エネルギー起源CO ₂				0	
メタン				0	
一酸化二窒素				0	
フロン類	5,990	(217.2)	-13,010	19,000	
温室効果ガス 実排出量総計	86,853	(2.5)	-2,147	89,000	
温室効果ガス みなし排出量		-		89,000	
目標設定の考え方	生産計画に基づく成行排出量に対して、省エネ法目標を達成する「年平均1%以上の改善」となる数値を設定。				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂				#VALUE!			
非エネルギー起源CO ₂				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
フロン類				#VALUE!			
総排出量				#VALUE!			
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-		0.0	-	-	
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	エネルギー起源 CO2排出量の削減	成行排出量比 1%以上削減 (毎年度)	ファシリティの高効率機器への入替、工場稼働に見合った生産設備の効率使用、及びファシリティ電力の最小化 他
2	PFC等排出量の 削減		温暖化影響の小さいガスへの代替化継続、PFC等ガス分解装置の導入及び稼働率向上、PFC等ガス使用の少ない製造品(プロセス)への変更 他
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

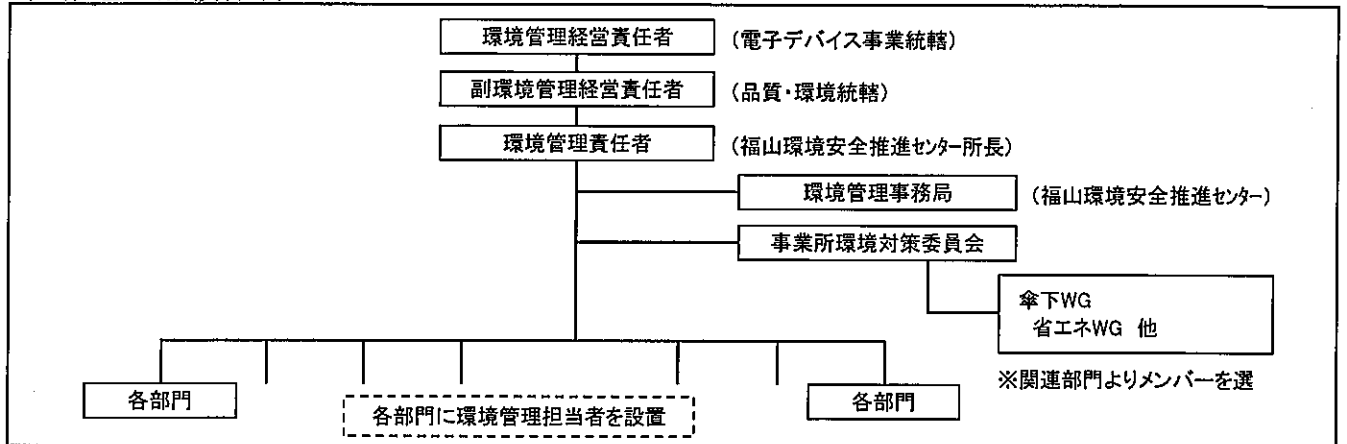
○ その他の取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	環境負荷低減活動の推進 ・廃棄物の排出量削減	—	生産薬品使用量の低減、排水処理使用薬品の低減によるスラッジの減量化 他
2	環境負荷低減活動の推進 ・化学物質の適正管理	—	使用化学物質の把握と新規化学物質の適切な導入審査実施 他
3	環境配慮型商品／ 高機能・高付加価値商品 の創出	—	グリーンデバイス等の開発と普及拡大(デバイスの省電力化等)
4	その他 ・社内教育、啓発の充実 ・社外コミュニケーション／ 社会貢献活動の推進	—	従業員への定期的な環境教育の実施、工場見学受け入れや環境教育会実施など地域学校への学習協力の実施、地域清掃、植樹活動等ボランティア活動への参画 他

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

- ・省エネ及びPFC等削減の実施状況は、環境管理事務局が毎月、把握・点検を実施。
- ・事業所環境対策委員会において、報告・評価・見直し等を実施し、継続的に改善。
- ・省エネWG等を必要に応じ適時開催し、新規施策の検討や水平展開等を実施。

(3) 計画書等の公表

- ・エネルギー起源CO2排出量は、省エネ法に基づき、「定期報告書」及び「中長期計画書」にて、経産省に年1回報告。
- ・PFC等排出量は、温対法に基づき、「温室効果ガス算定排出量の報告書」にて、経産省に年1回報告。また、業界団体を通じて、排出量の詳細を年1回報告。
- ・実績データは、毎年、事業所の「環境サイトレポート」にまとめ、近隣住民並びに関係者等へ公表・配布。

別紙（事業所位置図）

